送信機のC／N・BERなど測定
「電波監視モニター」デモ紹介

営電

営電は、長年培ってきた高周波、アナログとデジタル技術により、「全世界デジタル・アナログ放送方式対応」をテーマに、放送・通信分野における業務用伝送機器の多彩な製品を展示する。

ブースでは、TV／FMラジオ放送関連製品を多数展示。送信機のC／N・BER・中心周波数・伝送遅延時間などを監視・測定する可搬型「電波監視モニター」、入力されたTSにパケット異常が検出された時にダミーパケットを付加できる「パケット補完機能付きTS調整装置」、放送TS中のNSI情報を書き換えられ、遅延時間測定用のACデータの生成が可能な「NSI／ACインサータ」、新4K8K衛星放送のMMT／TLV形式、BS／広帯域CSデジタル放送や地上波デジタル放送のTS形式のストリームの記録と再生が可能なMMT／TLVとTSの記録・再生装置「ストリームボックス」、既存放送局のSDI回線を利用した大容量伝送を可能とする超高速伝送装置「SDI－Hyper」などをデモ展示する。

また、FM直線検波器とステレオ復調器と変調器を1筐体（きょうたい）で実現し、自動測定用パソコンアプリやIF（10・7メガヘルツ）入出力オプション搭載が可能で、FM送信機の各種特性が測定可能な「FMラジオモニタ／アナライザ」も披露する。

RF信号（電波）の記録と再生が可能なRFキャプチャ＆プレイヤーのラインアップを展示。小型・軽量で低価格を実現する「小型RFキャプチャ＆プレイヤー」と、世界初の1筐体で4系統のRF信号を記録・再生可能な「4ダイバー対応RFキャプチャ＆プレイヤー」を提案。受信機の試験、受信状況の調査や受信障害の原因究明、解析用などに最適だ。

そのほか、4K・8K衛星放送対応装置として、TLVストリーム再生部、フレーム構成・符号化変調部、アップコンバーター部を1筐体で実現した「ISDB－S3（高度化BS）信号発生器」と、1台でTLVストリーム生成とMMT／TLVストリームの解析や受信機能もオプション搭載可能な「MMT・TLVステーション」も昨年に引き続き展示。

さらに、今後の地上デジタル放送での4K／8K放送を見据えて「地上放送高度化再多重化試作装置」「地上放送高度化試作変調器」「インパルスノイズ信号発生器」とスペアナを接続したデモ展示も実施する。

MMT／TLV／TS記録・再生装置
「ストリームボックス（1710A）」